

Game Report

開催場所：大津町総合体育館

試合区分：第 23 回全九州大学春季バスケットボール選手権大会 男子決勝戦

試合期日：2018 年 5 月 20 日(日)

CC：御手洗 亮

試合時間：15：00～

U1：岩尾 圭治

U2：豆塚 宜男

東海大学九州	○ 76	14	—1st—	11	● 72	九州産業大学
		21	—2nd—	20		
		26	—3rd—	17		
		15	—4th—	24		

第1ピリオド

準決勝で接戦を繰り広げた両者の意地がぶつかり合う決勝戦。九産大#47宮崎、#13上良のレイアップで幕を開ける。東海大#20玉井も3Pシュートを決めるが、九産大#58鈴木がすかさず決め返す。東海大は積極的にシュートを狙うが決まらない。その間、九産大は確実にリバウンドを取り、得点を重ねる。中盤、途中出場の東海大#7石橋が3Pシュートを決めると、#20玉井が連続で3Pシュートを決め、流れを掴もうとする。しかし、九産大も負けじと得点し、一進一退の攻防が続く。14-11、東海大が一步リードし、第1ピリオドを終える。

第2ピリオド

開始早々、東海大は#14榎藤、#11趙のシュートで得点を伸ばす。九産大は果敢にドライブを仕掛けるが、得点につながらない。東海大はブレイクに走り、素早いオフェンスを展開する。#20玉井が3Pシュートを決め、10点差になった残り3:57、九産大はタイムアウトを請求。タイムアウト後、九産大#9米須がインターセプトからレイアップを決める。その後も九産大は#12安藤を筆頭にリバウンドに飛びつき、勢いづくも、35-31で東海大リードのまま前半を折り返す。

第3ピリオド

東海大#11趙の3Pシュートで始まった後半戦。すかさず九産大#5Jeremiahが決め返す。九産大は#30松川、#47宮崎が立て続けに3Pシュートを決め、1点差に迫る。しかし東海大は冷静に得点を重ね、逆転を許さない。九産大は#32Anthonyがインサイドで奮闘するも、得点につなげることが出来ない。その後も東海大は#9清辻が走り、得点する。63-48、東海大が大きくリードを広げ、第3ピリオドを終える。

第4ピリオド

序盤、九産大は#32Anthonyの果敢なリバウンドでオフェンスチャンスを増やす。このチャンスを逃すまいと、リングに攻め込み、東海大に1ゴール差まで迫る。残り4分、九産大#5Jeremiahがジャンプシュートを沈め、遂に68-68で得点が並ぶ。終盤、両チーム一進一退の攻防が続き互いに得点を決め合う。しかし、東海大は果敢にリバウンドに入り、九産大のファウルを誘うと、#11趙、#20玉井のフリースローで2点差をつける。両チーム最後まで気迫あるプレイを見せたが、終了間際、東海大#13久保がダメ押しのシュートを沈め、76-72で東海大が王者となった。